

# 泊地域の緊急時対応（概要版）

## ③UPZ圏における屋内退避・一時移転の考え方

区域	種別	対象者数	屋内退避 / 一時移転(1週間程度内に実施)の流れ			備考
			警戒事態	施設敷地緊急事態	全面緊急事態	
UPZ (発電所から概ね5~30km圏内)	避難行動要支援者(医療機関)	11施設 1,051床			<p>全面緊急事態 OIL2となった場合※5</p> <p>屋内退避(11施設: 1,051床) → 一時移転対象病院 → 受入先災害拠点病院※1(33施設) 受入可能人数: 4,650人</p> <p>バス・福祉車両(職員同乗)により避難</p> <p>一時移転の指示</p> <p>※1 北海道災害対策本部原子力災害医療チームが、受入に関する調整を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設毎の避難計画は策定済み。</li> <li>一時移転等の防護措置が必要となった場合、北海道の調整により、隣接管内等の災害拠点病院に入院患者を移転・収容。</li> </ul>
	避難行動要支援者(社会福祉施設)	67施設 2,687人			<p>屋内退避(67施設: 2,687人) → 一時移転対象福祉施設 → 避難先福祉施設※2(179施設) 受入可能人数: 2,687人</p> <p>バス・福祉車両(職員同乗)により避難</p> <p>一時移転の指示</p> <p>※2 あらかじめ選定した避難先施設が使用できない場合は、北海道が代替の受入施設(787施設3,719人受入可能)を調整。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設毎の避難計画は策定済みであり、施設ごとにあらかじめ受け入れ施設を確保。</li> <li>あらかじめ選定した受入施設が使用できない場合は、北海道が代替の受入施設を調整。</li> </ul>
	避難行動要支援者(在宅)	8,938人			<p>屋内退避(8,938人) → 一時移転対象者 → 一時滞在所※3 → 避難先ホテル・旅館(278施設)</p> <p>バス・福祉車両(支援者同乗)により移動</p> <p>一時移転の指示</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一時移転が必要となった避難行動要支援者は、関係町村が準備した一時滞在所に、その後、避難生活環境がより良いホテル・旅館に優先的に移動。</li> </ul>
	避難行動要支援者(学校・保育所・幼稚園)	100施設 8,669人	対象施設(100施設)		<p>屋内退避(100施設: 8,669人) → 一時移転対象学校等 → 一時滞在所※3 ※一時滞在所で保護者に引き渡し → 避難先ホテル・旅館(278施設)</p> <p>バス(教職員同乗)により避難</p> <p>一時移転の指示</p> <p>保護者引き渡し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設敷地緊急事態になった時点で授業・保育を中止し、保護者への引き渡しを開始。</li> <li>保護者へ引き渡しできなかった場合は、全面緊急事態で屋内退避を行い、その後指示に基づき一時滞在所に移動し、保護者に引き渡す。</li> </ul>
	一般住民※4	54,591人			<p>屋内退避(54,591人) → 一時移転対象者 → 一時滞在所※3 → 避難先ホテル・旅館(278施設)</p> <p>自家用車、バス等により移動</p> <p>一時移転の指示</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難計画で定めている避難先へ一時移転を実施。</li> <li>自家用車や北海道が準備したバス等で移動。</li> </ul>
	合計	75,936人				

※3 赤井川村については、避難先施設(キヨロリゾート)が一時滞在所の機能を有する。

※4 一般住民の対象者数は、UPZ圏内住民の合計数から避難行動要支援者の数を引いた数字であり、若干の増減がある。

※5 UPZ圏内の全住民のうち、緊急時モニタリング結果に基づき、毎時20マイクロシーベルトを超えると特定された区域の住民は、一時移転を実施。

北海道の要請に基づき、北海道バス協会が、後志地域のバス事業者と調整を行い輸送手段を調達。不足する場合は隣接地域、さらに不足する場合は北海道全域のバス事業者と順次調整を行い輸送手段を調達。

# 泊地域の緊急時対応（概要版） ④住民の安全確保に向けた主な対策

## 1. 泊地域の緊急時モニタリング地点及び一時移転の実施単位

- 緊急時モニタリング地点83地点（PAZを除く）を設定し、そこで測定された実測値に基づき迅速に防護措置を講ずる区域を特定できるよう、一時移転等の実施単位毎に関連付けを行っている。



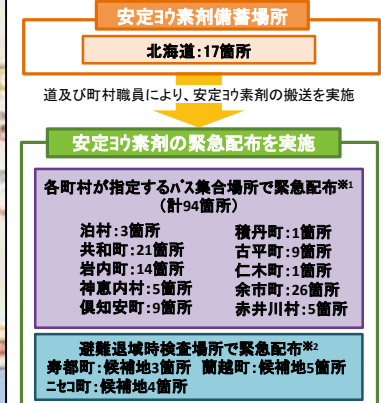
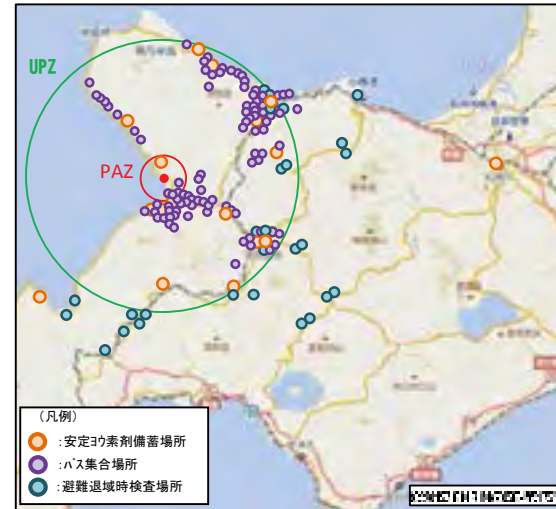
## 2. PAZ圏内の安定ヨウ素剤の事前配布と緊急配布

- 泊村では、PAZ圏内住民を対象に住民説明会を開催し、安定ヨウ素剤の事前配布を実施。
- 共和町では、避難を行う際にバス集合所にて安定ヨウ素剤を緊急配布することとしており、PAZ圏内住民を対象に事前問診を実施。
- 今後も継続して説明会を実施し、転入者等への配布や事前問診を実施。



## 3. 避難住民等に対する安定ヨウ素剤の備蓄と緊急配布

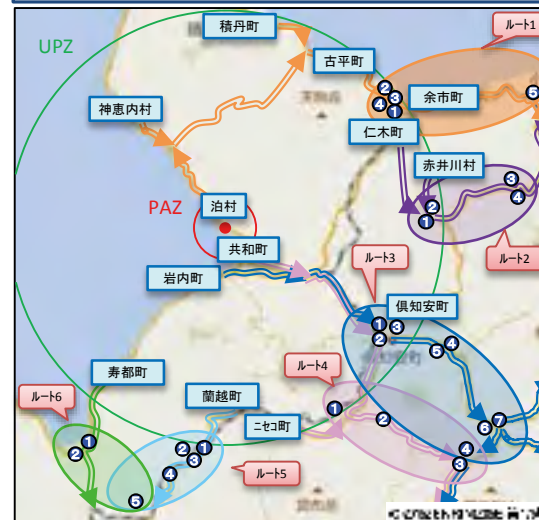
- 北海道では、避難住民等に対する安定ヨウ素剤の緊急配布のための備蓄を実施。
- 避難住民等に対する安定ヨウ素剤の緊急配布が必要となった場合には、バス集合場所や避難退域時検査場所以、対象住民等に順次配布を実施。
- 今後、乳幼児向けのゼリー状安定ヨウ素剤の備蓄及び配布についても検討。



※1: バス集合場所等で緊急配布する10町村の住民は、避難退域時検査場所以（候補地27箇所）でも緊急配布を受けられる  
※2: 避難退域時検査場所以での配布については、候補地のうち発災時に北海道が指定する箇所において配布

## 4. 避難退域時検査場所の候補地の設定

- 北海道では、緊急時の避難を円滑に行うため、UPZ圏内人口等を考慮し、避難元町村と各避難退域時検査場所の対応付けを行ったうえで、候補地をあらかじめ準備。



ルート	検査場所	避難元町村
1	①余市アプルポート（農道空港）②中央水産試験場③余市河口漁港④道の駅「ベースアプルよいち」⑤おたるマリ広場	泊村、神恵内村、積丹町、古平町、余市町
2	①都運動公園（赤井川村）②道の駅あかいがわ③赤井川山村山村活性化支援センター（キヨリソート入口）④キヨリソート	仁木町、赤井川村
3	①後志総合振興局②俱知安町中央公園③旧東陵中学校④京極町総合体育館⑤京極ニューパーク⑥喜茂別町民公園⑦喜茂別町農村環境改善センター、【再掲】ルスツリゾート	岩内町、俱知安町
4	①道の駅「ニセコブルー」②ニセコ町運動公園③羊蹄山自然公園④道の駅「230ルスツ」④ルスツリゾート	共和町・ニセコ町
5	①道の駅「らんこしふるさとの丘」②旧目名小学校③蘭越町山下PA④黒松内町白井川PA⑤道の駅「黒松内」	蘭越町
6	①潮路小学校②ゆべつの中、【再掲】道の駅「黒松内」	寿都町